

医療救護班として石巻日赤で活動しました。
あれから10年経ちますが、
如何おすごしでしょうか。
東日本大震災を思い出すたびに、
皆さんの今に思いを馳せています。
世はコロナ禍で大変な折ですが、
震災前の日常に少しでも近づくことを
祈念しています。

名古屋第一赤十字病院 K



日赤こころのケア救護班として、
平成23年3月14日から6日間石巻に伺いました。
避難所では、暖房のない寒い体育館に
避難されている方々に一時的な支援しか
できず申し訳なく思いました。
大変な思いをされた石巻の方々のことを
決して忘れません。

神奈川県赤十字血液センター M

10年前、石巻で救護活動を行いました。
私も阪神淡路大震災で被災し、
そして少しでも苦しんでいる人の為に
赤十字で働き活動してきました。
10年経ち町並みは少し復興したでしょうが、
心の復興には時間がかかります。
コロナ禍で大変かと存じますが、
どうかお元気で。

今津赤十字病院 森岡立樹



2011年4月に救護活動をし、
6月には石巻で心のケア活動をしました。
お寺での巡回診療や半島での急変対応で
出会った方々の言葉は今でも心に残っています。
心のケアで出会った子供も成長されていると
思います。忘れる事はできません。
コロナ禍ですが身体には気をつけて
お過ごしください。

高知赤十字病院 大崎君子

2年前の春、初めて集会所での
「お茶っこ」に参加しました。
コーヒーを漬け物と一緒に飲んだのは、
初めてでした。あの時に教えていただいた
大根のらっきょう酢漬は、今も時々
作っています。今はまだ難しいですが、
コーヒーとポットを持参して、
また必ず行きます。

きずな新聞 珈琲屋のゆうちゃん(神奈川)



震災発生から2か月後に
石巻市を中心に活動しました。
避難所を巡回診療で伺った際、
救護服腕の“福岡県支部”の文字を
見た方が「遠い九州から東北まで」
わざわざ来てくれてありがとう。と
感謝頂いたことを思い出します。
コロナ禍の今、健康に留意されてお過ごし下さい。

日赤福岡県支部 緒方毅史

ボランティアに参加して思うのは、
いつもこちら側がはげまされている
ということ。忘れてはいけないことを、
思い出させていただいています。
コロナが落ち着いたら、
必ず手渡して届けに参ります！
コロナに負けずに、
元気でいてくださる。

きずな新聞 ひろみ(仙台)

震災2日目より石巻赤十字病院で被災者の
診療と救護施設の立ち上げを行いました。
その時の光景は今も強く心に焼きついています。
10年が経ち、皆様のお一人お一人が
災害復旧や復興に向かって
歩まれてきたことを、大変恐縮ながら
称賛させていただきます。
どうぞお体を大切に。

広島赤十字・原爆病院 岡野博史



10年前石巻を訪れたときのことを
忘れることはできません。自然の力の脅威、
人間の無力さを見せつけられ、
余震の続く不安な時間の中で、
自分のできることはなんとちっぽけなんだろう
と思いました。でも、小さいことも大切、
悪い事も多いですが
きっといい事もあると思います。

日赤医療センター 吉田英雄

震災3日目に石巻日赤で活動しました。
診療に必要なお名前・年齢などをお
聴きしているとき、
ご自身も大変な状況にも関わらず
「遠いところからありがとう」などと
声をかけてくださりこちらが逆に
励まされたのを思い出します。
コロナで大変ですがお体に気をつけてください。

日赤千葉県支部 ひろ



寒い日が続きますが
いかがお過ごしですか。
「もう10年」なのか、それとも「まだ10年」
というべきなのでしょう。
石巻のきれいな町並みと共に、
皆様の心の中の風景も穏やかでありますよう、
東京から祈っています。

日赤医療センター SSK

新聞をお読りする時、初めて会う私に、
震災からこれまでのこと、
いろいろお話して下さったこと忘れません。
『美味しい物いっぱい』
『心温かい方いっぱい』
の大好きな石巻に、必ずまた伺います。
お身体を大切に、
お元気で過ごしてくださいね。

きずな新聞 あっこ(大阪)



たんぽぽが沢山咲いている公民館から
湊小学校の救護所に通いました。
震災関連の映画「石巻市立湊小学校避難所」
の予告映像を見て、懐かしい方々の
前向きな姿に感銘を受けました。
この映画は、長崎で上映されませんでしたが、
いつかまたこの目で“石巻の今”を
見たいと思います。

日赤長崎原爆病院 光武



もう10年になるんですね。
新型コロナのため、
石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、
また会いにいきますね。
時間が経っても悲しいお気持ちは
変わらないと思いますが、少しでも
元気出してもらえると嬉しいです。
新聞配りにいったらお話ししましょう。

きずな新聞 佐藤俊一/しゅん(東京都)

10年間、
たくさんの涙と笑顔と皆さんと共有しました。
直接お会いした方、
紙面を通して出会ってくださった方、
すべての出会いに感謝です。
11年目のこれからも、共に歩んでいきましょう。
あの日を生き抜き、
そして今日まで生きててくれて、ありがとう。

きずな新聞 岩元暁子/あき(東京/石巻)

